

自信と確信をもって 新体制の整備に邁進!

動労千葉

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!



錯乱的あがきに走る本部・革マル

全国の動労組合員のみなさん! 動労千葉一四〇〇名組合員が「3・30地本臨大」結成大会をもって決起してから約一週間が過ぎました。われわれは唯一正統な動労千葉地本の主体を確保しつつ、本部・革マルの全くセクト的な組合引きまわし統制処分、執行権停止攻撃に対し、一四〇〇名組合員・家族の生活と権利を守るために「団体交渉権」「労働協約・協定の締結権」「指令権」などを確立するものとして、新組織結成を決定しましたが、日々着々と新体制の整備が進められています。激動の八〇年代へ向けて、他単産の批判をするばかりで、自らは「謀略」と「厳寒期」を口実に全く関わらないという「貨物安定宣言」に代表される本部・革マルの路線的誤まりを正し、動労を本来の戦闘的・階級的労働組合にしてゆくために決起した動労千葉の闘いの意義はいまや鮮明であり、一四〇〇名組合員は、自信と確信をますます深めつつ闘っています。

デタラメな統制処分 明白な本部・革マルの破産!

この動労千葉の決起のもつ意味は、単に二九地本中の一地本という重みにとどまらず、革マルの「排除の論理」に対する一〇年間の闘いに対する全国・四万八千組合員の共感の上に立って、真正面から闘われているということです。このような実態から、全国で、具体的に大きな影響を流動化現象を、とどめることのできない歴史的流れとして、現出してきているということです。

反動的暴力による「排除の論理」で一挙に千葉地本排除を強行しようとした本部・革マルは、全ての破壊策動を粉砕され、思想的ゴウ慢さ、労働者ベツ視と、規約・規則など平気で踏みじるという革マルの本性から、やることなすこと全てが尻抜けになり、貫徹でき得ない状態に迫りこまれ、動揺を深めています。

千葉地本に対する統制処分のやり方ひとつを見ても、本部・革マルの動揺と錯乱はありありと現われています。

われわれは、統制処分そのものを、絶対に認めることはできないが、更にその具体的内容を見るならば、この間の経過から見ても、規約・規則に照らしてみても、地本副委員長以下の執行部より、地本青年部、津田沼支部長の処分の方が量刑が重いということがあてはまるでしょう。

いかにコジつけようが無理でデタラメな処分内容であることは明々白々であり、このようなものの押しつけで組合が運営できると考えるところに、現在の動労本部・革マルのオソマツさがあると云えます。われわれがこれを断固認めないことは当然です。

みさかいのないヤツ当りの革マルの攻撃!

更に、焦りにかられた本部・革マル分子は、まさに、見境のない、ヤツ当りの個人攻撃も含めて、卑劣な攻撃を仕掛けてきています。

①千葉地本出身の中江副委員長、篠塚君(印刷センター出向)に対する(本部)「団結署名」の強要と、「出身支部へ行って一二月以降の組合費を返してもらい本部へ持ってこい」なる言いがかり。
②地本専従者をはじめ、職員、中江副委員長、篠塚君に対して給料を一方的にストップ。

③「除名」を通告したのだから「共済組合証」を返せと言っている。

④「動労申第一二号」のデタラメさ。当局に対し八言うことを聞かない組合員(動労千葉の)をクビにしろと言っている。等このデタラメさに全国の良心的、戦闘的役員、活動家はあきれはて、ますます革マルに対し、怒りをもえ上らせています。

本部青年部を僭称しての4・12 破壊「オルグ」を断固粉砕する!

このような中で、関東地評内に巣喰う革マルとその追随分子は四月九〜一〇日に「臨時全支部委員長会議」を開催し、「九日は意志統一で、一〇日は千葉へ入る」などとうそぶき、本部青年部を僭称する輩は、総評青年協集会(四月一日)を中心とする行動の中で四月一二日に六〇〇名を動員してオルグと称する襲撃を仕かけようとしています。われわれは「来るなら来い!」という体制を構築し、この破壊攻撃を断固粉砕する決意です。

全国の動労組合員のみなさん! 本部・革マルの右翼・反動路線、動労私物化を断固拒否して、動労運動の戦闘的再生のために、ともに闘いましょう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ!